



## 高隈ダム通水式（東原町）

昔 昭和42年3月



今



スプリンクラーから飛び出した水に、ドツとあがる歓声とどよめき、万歳をする女性たち。この写真は、国営畑地かんがい事業第1号「国営笠野原畑地かんがい事業」の「高隈ダム通水式」での一コマ。昭和42年3月、高隈ダムの完成とともに、水不足に悩む笠野原台地への通水が始まりました。この水は今でも台地を潤し続けています。



昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！

## カノヤタイムトラベル

島津家から贈られた「繁昌」

はんじょう



繁昌家の当主に島津氏久が贈ったとされる馬具などは、現在も子孫が大切に守り継いでいる

全国に及んだ南北朝動乱期の14世紀半ば、島津氏久は、父・貞久（島津家5代当主）から大隅守護職を与えられ、以後、氏久は大始良城を拠点に大隅支配を開始しました。このため大始良には、氏久ゆかりの史跡や伝承が多く残っています。

正平18年（1363年）、氏久に待望の長男・元久が誕生すると、氏久は、元久が無事に成長することを願って、翌19年（1364年）に八幡神社を建立したと伝えられています。御神体は、「新八幡宮氏久」と記された黄金の丸い鏡だったと言われていますが、残念ながら現在に残っていません。元久の誕生は大きな喜びだったのでしよう。「三國名勝図会」に



【上】八幡神社の杜  
【下】島津氏久の墓跡  
※いずれも大始良に残る

よれば、氏久は、産湯を献上した家に「世々（代々）繁昌せよ」という言葉を贈り、以降、同家は「繁昌」を名乗るようになったと伝えられています。また当主には「孫」の字が贈られ、以来、代々の当主は、「孫兵衛」など、「孫」の字が付いた名前を名乗ったとされています。

このほか、同家には、馬術の名手とされた氏久から、轡や焼印等の馬具や、鞍・鎧等の描かれた書画などが贈られたとあります。

のちに氏久は志布志城を居城とした後、鹿兒島に戻り、元中4年（1387年）に60歳で亡くなりました。氏久の生前の望みどおり、墓は大始良に建てられました。のちに島津家の菩提寺・福昌寺（鹿兒島市）に移されました。